

自然と歩いて暮らせる 健幸まちづくりにおける 公共交通施策の重要性

「健康の社会的
決定要因」の
一つ「移動」と
健幸を考える



健康<健幸！？



健康日本21(第三次)の
「自然に健康になれる環境整備」とは！？



開催日時
開催会場

2025年10月29日(水)以降
オンデマンド視聴

*視聴方法の詳細は、学会公式HP(<https://plaza.umin.ac.jp/~jsph84/>)をご確認ください。

座長

- 大久保一郎・茅ヶ崎市保健所長
- 久野譜也・筑波大学大学院人間総合科学学術院教授/
内閣府SIPプログラムディレクター

登壇者

シンポ
ジスト

- 人が自然と歩いてしまう環境とは！？
つくばウエルネスリサーチ取締役副社長/内閣府SIPプログラムディレクター補佐・塚尾晶子
- なぜ、公共交通政策が健幸まちづくりの推進に必要なのか！？
筑波大学システム情報系教授/日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員・谷口綾子
- 高齢化の進行・高止まりが見込まれる今後における
多摩市の健幸まちづくり ～外出促進と移動手段の観点から～
東京都多摩市長・阿部裕行
- 時間消費機能を持つモビリティハブはコミュニティの再生に貢献する
日建設計総合研究所主席研究員・安藤章

SWC首長研究会では、個人への介入による政策効果の限界性から、暮らすだけで健康になれるまちづくり、分野間連携にもとづく総合的な健幸政策を科学知&経験知ベースで展開してきた。一方、内閣府SIP(戦略的イノベーション創造プログラム)では、介護予防や生きがい創出等に資する外出促進等の観点から、自動走行低速モビリティの社会実証に取り組んでいる。最近では、国土交通省の共創MaaSや内閣府の地方創生2.0等を人のつながり促進を含む、健幸まちづくりに活用する市町村も現れてきた。本セッションでは、公共交通をはじめとしたハード整備事業のエビデンスやノウハウを共有しつつ、人口減少社会における健幸政策との融合、横断的施策の普及・横展開のあり方を議論する。

【お問い合わせ先】

■株式会社つくばウエルネスリサーチ
SWC推進部 担当:佐俣・徳田
〒277-8519
千葉県柏市若柴178番地の4
KOIL505
TEL 04-7197-2360
FAX: 04-7197-2361
E-mail:info@twr.jp